認定 NPO 法人
暮らしネット・えん
Tel 048-480-4150

2026年度 春号

えん通信 No.88

高齢になっても、障がいをもっても、この街で暮らし続けるために

第15回 まどかコンサート

2026年3月1日(日) 春風にのせて（リードオルガンコンサート）

風の楽器リードオルガンの音に耳を傾け、一緒に歌いましょう！

使用楽器：足踏みリードオルガン 49 鍵
Yamaha Organ Hamamatsu
製造番号　69782（明治３８年）

2026 年 3 月 1 日(日)、リードオルガン奏者の相田南穂子さんをお招きし、第 15 回まどかコンサートを開催しました。題して、**『リードオルガンコンサート 春風にのせて ～風の楽器リードオルガンの音に耳を傾け、一緒に歌いましょう！～』**。

２月１日から参加受付けをスタートすると次々に申し込みをいただき、当初予定していた定員 40 名をはるかに超える 67 名もの参加となりました。当日はタイトルそのままのあたたかな日差しに恵まれ、まどかの利用者さんや地域の方々、ボランティアさんとスタッフも加わり、満員の盛況となりました。

★6ページにて参加者された方の感想と、今回初参加したスタッフのレポートで当日の様子をご紹介します！

認知症、隠さないことが事故防止

2月末の米国とイスラエルによるイラン攻撃開始以来、毎日猫の目のように変わるトランプ大統領の発言に振り回される日々が続きます。米国民がこの人を選んだ結果、世界中が振り回される、爆弾が降ってくる。

翻って日本では、先日の閣議決定で日本は武器輸出ができる国になってしまいました。かつての外務大臣が「兵器を売るほど落ちぶれていない」と断言したのを問われて「時代が変わった」と言ってはばからない総理大臣を選んだのも（直接ではないにしろ）私たち日本国民です。私たちの国で作った兵器が他国民を殺傷する。時代が変わろうと政権が変わろうと認められません。介護は人々の生活を守る仕事、戦争は命も生活も破壊します。

2024年中に届け出のあった認知症の行方不明者は1万8121人。12年は9607人でしたから、1.9倍に増えています。うち亡くなった人は491人、2025年末まで未発見の人は171人（発見の届けがなかった人数）と報道されています。「ひとり歩き」による行方不明事故は「認知症かな？」という時期に起きることが多いのです。介護保険の要介護認定前が最も多いというデータさえあります。要介護３になると少なくなり、それ以上になるとほぼおきません。

実家のご近所で子どものころから知っていた男性が、この冬行方不明になり１０日後に発見、崖地で転落して亡くなられていました。少し歩けば山に入る地域、妹と「見つかっただけでも良かった」と慰めあいました。この男性が歩き始めて間もない時間に会った知人が「知っていればひきとめたのに」と嘆いていたそうです。危ないなと思ったら、みんなに知らせる、それも事故防止になります。ちなみにこの知人は認知症があることは知っていても、「独り歩き」でいなくなってしまうことは想定できなかったようです。

日本で最も自殺率が低い町には「病いは市（いち）に出せ」という格言があるそうです（岡檀著「生き心地のよい町　～この自殺率の低さは理由がある」講談社刊）。心身の不調は周りに伝えておくことで防げることがある。通常は隠しがちな精神疾患もあけっぴろげに話すことで地域で見守ることができ、また早期の受診にもつながる。認知症についても同じことが言えるように思います。かつては認知症なのが知られるので、えんの送迎車は一本先の道に停めてと依頼する家族がいました。さすがに少なくなったものの、今も皆無ではありません。誰でもなり得る病気です。早めに知らせる、みんなで見守る。事故防止だけでなく、偏見をなくしていく大きな一歩です

代表理事　小島美里

利用者に向き合い、想像し続ける

介護職に転身して半年足らず、バタバタ状態で冷や汗ものの毎日なのに、えんを代表して事例検討会で発表するという大役を突然、仰せつかった。われらがボス、小島美里さんは時々、とんでもない無茶振りをするのです。ご存じの方も多いかもしれませんが。

テーマは「事例から学ぶ認知症ケア」。昨年8月から利用されている全盲の 70代男性の事例がよい、とのデイホームの先輩からのアドバイスで、早速資料の作成を始めました。月2回の利用ですが、朝夕の送迎をはじめ、同じ男性同士ということで比較的長い時間会話を交わしていたと思っていたのに、男性がデイサービスに何を求めているのか、なぜここに通ってきてくれるのかがはっきり見えていないことに気づかされました。「利用者本位のケア」を求められているのにかかわらず、利用者の胸の内をちゃんと想像できていない自分にがっかり。事例検討という機会がなければ、気付かなかったと思います。

新座市立中央公民館２階研修室にて開かれた事例検討会の様子

自宅に送り届けた別れ際には「楽しかった」とおっしゃる男性。奥様に聞けば、デイに来る朝に「行きたくない」と言うこともあるとか。「楽しかった」のは本音でないのかもしれない。では、自分たちはどのようなケアの工夫をしたらよいのか。答えが出ないまま、当日を迎えたのでした。

グループでの討議で出た見方や意見、その後のグループ代表の方のご指摘には、自分がまったく思いもよらなかった視点がいくつもありました。ケアの方法で参考になるご意見も聞かせてもらいました。多職種で一つの事例に時間をかけて考えることの価値を、痛感したのでした。

この人はどんな思いで来ておられるのか。利用者さんのニーズは当然、一人一人違うわけですから、ケアで向き合いながら想像し続けるしかありません。想像の基本にあるべきは、利用者さんとの人間関係。「この人なら話せる」と思ってもらうため、日々の努力が欠かせないと思っています。

デイホームえん　五十住和樹

ボランティアさん特集

ある絵本との出合いから

まどか管理者の菅さんから「ちょっと見てほしいものがあるんだけど」の一言からその出合いとそれに続く思いが始まりました。

英語版の柔らかい色使いの絵本、そしてそれを和訳した絵本。驚きました。和訳し製本までされた方はまどか利用者のAさん。いつもにこやかにされている方です。若い頃に30作品ほど和訳し製本されたそうです。さっそく1冊持ち帰らせていただき、自宅で楽しく読みました。

まどかの利用者さんお一人おひとりには若い頃頑張って築かれた経験がおありだと思います。戦争を経験された方も多いです。苦労しながら培われた強さや積み重ねてこられた日常の重さ等……。まどかの台所でボランティア作業しながら背中で耳にする皆さんの会話から、そんな状況をたくさん知ることができます。

現代では珍しい嫁としての苦労をされた方、社会へのアンテナを高くして活動をされた方、働きながら得た資格で誇りをもって仕事に励まれた方、子どもたちに手品や手遊び等教えられた方、本当に枚挙に限りがありません。日常をあわただしく過ごしていると、かかわっている方の“今”しか見えない傾向が世の中にはあると思います。お一人おひとりの“まるごと”築かれた日々に触れる大切さを改めて強く実感しました。

私は以前、ヘルパー、ケアマネジャーとして20年ばかり介護業界で働きました。個人宅がメインでしたので、まどかの集団での経験は初めてでした。それぞれに不自由さなど抱えている事情は違います。小さな摩擦などもあるようです。でも、皆さんその方なりの思いやりを示しながら共に時間を過ごされているように感じます。忘れることが多くなっても、できることが少なくなっても、培ってきた逞しさは何よりの個性だと思います。

私がまどかにうかがい始めて10年以上過ぎました。正直からだがつらかったり、面倒だなと思う日もあります。が、しかし、忙しく立ち働く職員さん、利用者さん、それぞれに“今”があり、紡いできた過去があります。その“まるごと”にふれあえるのがボランティアの醍醐味かなと最近思うようになりました。

私も今年は後期高齢者の仲間入りです。幸せを感じたこと、つらく悲しかったこと、逃げずに頑張ったこと、いろいろあります。そして、人の気持ちをたびたび傷つけたこともあります。すべて私の“まるごと”です。

先日、島倉千代子の『人生いろいろ』を聴きました。利用者さんの人生に重ねて、これからの穏やかな日々を願いました。

（ボランティア／胡桃沢良子）

ボランティアミーティングに参加して

2025年度のボランティアミーティングを3月21日午後、グループリビングえんの森で開催いたしました。

当日は、長いお付き合いの方から、「このミーティングがえんのボランティアとしてのデビュー！」という方まで14名が参加してくださいました。

多機能ホームまどかの台所ボランティアさんたちからは、「木の俎板で包丁がトントントンって鳴るのがいい音よねぇ」と言ってもらったり、「利用者さんたちの会話を背中で聞いて楽しんでいる」との声も。

グループホームえんとデイホームえんでお味噌汁作りをしていただいている方は、えんの食卓のスタッフでもあります。「食卓のお弁当作りは時間との闘いだが、デイの台所はゆっくりしていてよい」とおっしゃいます。

庭のボランティアさんたちは「お花を見てもらいたい」と話してくれたり、とにかく皆さんが楽しんで来てくださっていることを、改めてありがたく感じたのでした。

フードパントリーの活動の紹介も。また、「スタッフとボランティアをつなぐ努力がもっと必要では？」という声を頂いたり、地域の方たちの生活や、自分たちの仕事を振り返る時間も持つことができました。

グループホームえんやデイホームえん、まどかなど各事業所の毎日は、利用者さんとスタッフ、ご家族、ボランティアさん、地域の方、みんなで作っているものです。ボランティアさんたちの、生活を豊かで楽しみに満ちたものにしたいという関りが、えんの事業所の空気を作っているのです。

ボランティアの皆さま、いつもほんとうにありがとうございます。これからも頼りにしています！

（グループホームえん／井上暁子）

暮らしネット・えんでは、地域のボランティアさんが何人も活躍されています。
直接介助にあたることはなくとも、日々さりげなく利用者さんを見守ってくださっています。

第15回 まどかコンサート

春風にのせて（リードオルガンコンサート）

風の楽器リードオルガンの音に耳を傾け、一緒に歌いましょう！

春を運んでくれた相田さんへ、利用者から花束贈呈。

「ここ（まどか）に40人も50人も人が入れる？？」

まどかコンサート初体験の私たちの素朴な疑問は、当日、参加者が次々と集まってこられる様子を目の当たりにして吹っ飛びました。

入職して数か月の私たちにとっては、見慣れないお顔も多く、地域から参加してくださった方がそれだけ多かったということなのだと思います。終演後、「（まどかコンサートは）けっこういいんだよ」と話しながら帰っていかれる方もおられて、このコンサートが思いのほか（？）地域に根付いたイベントになっているのだなと感じました。

参加してくださった皆さんが楽しみ、喜んでくれたことがスタッフとしては何よりうれしいことです。「いつもと違うまどか」を新鮮に感じながら、相田さんの演奏に集中し、一緒に口ずさんでいた利用者さんの姿も印象的でした。

演奏者の相田さんは、2013年にもまどかコンサートに出演してくださったと聞いています。これからも、人とのつながりを大切にするまどかでありたいと思いを新たにしました。

（多機能ホームまどか／小林一美・金子慧）

参加された方の感想（抜粋）

✽風がまどかに春を運んでくれた！素朴な足踏みのリードオルガンの演奏は、子ども時代の自分に再会させてくれました。春づくしの歌（曲）に姉や妹、母をまじえて声を合わせた思い出や田舎の景色がよみがえり、懐かしさとあたたかい思いに満たされたひと時でした。古い歌や古謡がこんなによい曲だったのねと、改めて心で味わえてうれしかったです。

✽明治38年製造のリードオルガンの音色に包まれ、次々と懐かしい春の歌を合唱し、最近の不安な世の中をしばらく忘れて気持ち良くひと時をすごさせていただきました。

✽初めて来ました。小さい頃にはあまりわからずにうたったものですが、こんな良い詞だったんだと今頃気づいたりしました。声を出して歌う。なんと幸せなことでしょう。あまり外出の機会もなかったのですが、きょうはうれしい１日でした。

まどかコンサートは毎年、地域の皆様のご理解とご協力のもと、まどかを会場に開催させていただいています。
ご近所の皆様、駐車場を提供してくださったスーパートヨダさん、まこと保育園さん、ありがとうございました。

2026 お花見弁当

これまでケアサポートえんでは利用者の皆さんとお花見を楽しんでいましたが、コロナ禍以降、集まることが難しくなってしまいました。それでも皆さんに春を感じていただきたく、えんの食卓が手作りをしたお花見弁当を今年もお届けすることにしました。少しでも春を感じていただけたらと桜の写真と、心ばかりのメッセージカード（おしながき）を添えています。

夫婦で届けたお花見弁当

今年の桜は咲き急ぐように満開を迎え、華やかに終わりました。その短い開花のピークにちょうど、えんのお花見弁当をお配りする日曜日がピタリと当たりました。夫はえんのお手伝いは初めて。夫婦で配達をすることになりました。

利用者のお宅を目指して、助手席の妻からは容赦なく「あっち」「そこ曲がって」「ここ！」と指示が飛びます。おそらく桜を愛でている余裕などは無かったように思います。それでもお弁当を手渡しして車に戻る妻の笑顔を見て、自分も何かしらの充実感を得ていたのではないでしょうか。

私も最初は「えんの食卓」から働き始めましたので、ヘルパーとなった現在は久々の配達でした。うっすら透けて見えるお弁当の鮮やかな色彩を見て皆さんニッコリ。「ありがとう！」と、なかなかお会いできなくなった利用者さんとも再会。素敵な春のひととき。夫と二人で良い時間だったね、と寄り道しながらお花見をして帰りました。

（ケアサポートえん／村上千寿子）

えんの食卓厨房

おしながき

五目ちらし寿司
鮭の西京漬け
厚焼きたまご
とりの唐揚げ
煮物
ほうれん草のごまあえ
水ようかん

お花見弁当今年のメニュー

グループリビングえんの 森入居者募集！

お問合せは事務局まで TEL 048-480-4150

第22回
定例総会のお知らせ

えんからの
お知らせ

日時：2026年6月21日（日）　場所：新座市立中央公民館体育室

13：30～15：30　定例総会　15：40～16：50　記念講演

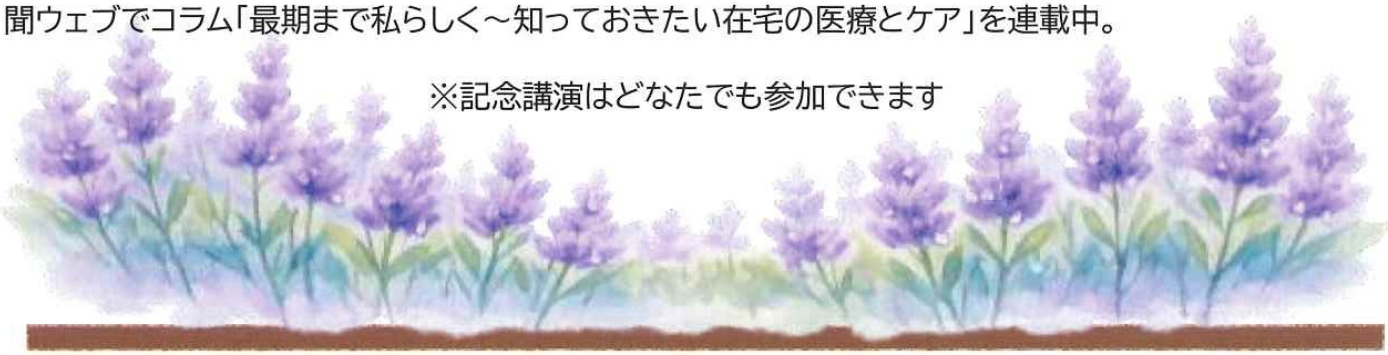
「私たちが地域でできること」
～世田谷区「認知症条例」などの活動を通して～

地域政治やまちづくりは、行政任せでは多様な課題に十分応えきれず、現場の実情に即した対応が求められる中、住民の声や行動が不可欠となっている。住民の主体的な関わりで変化した世田谷の事例を、「認知症条例」策定過程や「居場所サミット」などでの活動を通じて報告する。

中澤まゆみ（ノンフィクション・ライター/福祉ジャーナリスト）

1949年長野県生まれ。著書に『ユリ―日系二世ハーレムに生きる』（文芸春秋）、『おひとりさまの終活』（三省堂）、『おひとりさまでも最期まで在宅』、『人生100年時代の医療・介護サバイバル』（いずれも築地書館）、『いえに戻りたい～病院からの帰宅をスムーズに～（仮題）』など多数。在住の世田谷区で「ケアコミュニティ　せたカフェ」、「せたがや居場所サミット」などを開催する。世田谷区認知症施策評価委員。毎日新聞ウェブでコラム「最期まで私らしく～知っておきたい在宅の医療とケア」を連載中。

※記念講演はどなたでも参加できます



● **地域で暮らし続けていくために2025年度新規・継続会員募集中！**

正会員／1000円　　賛助会員／3000円

郵便振替（00180－5－314344）　※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください

●●次回 2026 年度春号№89は7月末頃発行予定です！●●

● 発行・編集 ●

NPO法人　暮らしネット・えん

〒352-0033　埼玉県新座市石神2－1－4

TEL：048-480-4150　FAX：048-201-1311

Eメール：kurashinet@npoenn.com

ホームページ：https://npoenn.com/

ホームページ QR コード

えんX(旧ツイッター) QR コード